

各位

会社名 日本ビジネスシステムズ株式会社  
代表者名 代表取締役社長 牧田 幸弘  
(コード番号: 5036 東証スタンダード市場)  
問合せ先 取締役常務執行役員 CFO 勝田 耕平  
(TEL. 03-6778-7336)

## 資本コストや株価を意識した経営の対応状況について

当社は、2024年12月20日開催の取締役会において、以下のとおり、自社の資本コストや資本収益性を分析・評価し、改善に向けた方針や具体的な取り組みを決議しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 現状分析

##### (1) 株主資本コスト

当社では、資本資産価格モデル (CAPM) に基づき算出された数値を株主資本コストとしてとらえております。但し、上場から2年程度であり $\beta$ の算定期間が短いことや不十分な取引量などの問題があることから、これを絶対視せず、今後も資本コストの水準につきまして投資家の皆さまとの対話を基に適宜修正して参ります。

計算の結果、株主資本コストは7.5%から8.5%の範囲と推定しております。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{株主資本} \\ \hline \text{コスト} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{無リスク}^*1 \\ \hline \text{資産利率} \\ \hline \end{array} + \beta^*2 \times \begin{array}{|c|} \hline \text{マーケット} \cdot ^*3 \\ \hline \text{リスクプレミアム} \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{個別株サイズ}^*4 \\ \hline \text{リスクプレミアム} \\ \hline \end{array}$$

= 7.5%~8.5%

\*1 無リスク資産利率: 10年物国債の1か月平均利回りを使用

\*2  $\beta$ : マーケット・リスクプレミアムに対する当社株式の感応度。推計値を修正して使用

\*3 マーケット・リスクプレミアム: 過去の日本株式市場におけるリターンから推定して使用

\*4 個別株サイズプレミアム: 過去の日本市場におけるリターンから推定して使用

##### (2) 資本収益性

当社では、共用の資産が多く事業セグメント別に資本の区分が困難なこと及び、事業セグメント間の事業関連性が高く事業セグメント別に資本収益性を管理する有用性に乏しいことから、資本収益性の指標としてはROICではなく、ROEを重視いたします。

過去5年間のROE推移は以下の通りです。

	2020年9月期	2021年9月期	2022年9月期	2023年9月期	2024年9月期
ROE	7.4%	12.4%	16.0%	16.0%	6.7%

##### (3) 自社の資本コストや資本収益性及び市場評価に関する取締役会の評価

2024年9月期のROEは6.7%と株主資本コストを下回る結果となりました。また、2023年10月1日から2024年9月30日までの平均PBRは2.6倍、平均PERは17.5倍となりました。この結果をうけ、当社が属する情報・通信業の他社と比較して低い水準にとどまっていると取締役会で評価いたしました。

## 2. 改善に向けた方向性

### (1) ROE改善に向けた方向性

ROEの目標を過去5年間の平均値11.7%を上回る13%に設定いたします。

ROE目標達成に向け、以下の方針に従い取り組みを実施致します。

売上高利益率の改善	収益性の高いクラウドインテグレーション事業及びクラウドソリューション事業の売上比率向上、成長領域（AI、セキュリティ）への注力
総資産回転率の改善	売上高の増加、総資産増加の抑制
財務レバレッジ	最適な資本構成の維持

### (2) 市場評価改善に向けた取り組み

当社は市場評価改善に向けて、株主・投資家との対話を重要と考えております。

ROE目標を継続的に達成していくとともに、当社の成長戦略について株主・投資家との対話を実施してまいります。

以上